



「新規就農者の育成・確保」

～担い手不在地域への就農～

小中 将史
(竹原市中浦新開)



氏名 小中 将史

就農年月 平成30年9月

経営面積 4.9ha

(うち機構活用面積4.9ha)

生産品目 レタス 枝豆 とうもろこし

従業員 2名

経営の特徴 レタスを中心とした

土地利用型園芸作物栽培

～事例のポイント～

①地域の協力で新規就農者がまとまった農地を確保

②不作付地を解消し地域を活性化

地域の課題

竹原市中浦新開地区は、竹原市南部に位置し、昭和8年の干拓事業により水田地帯となり、稲作を中心とした生産が行われていましたが、近年では、不在地主とともに増加する不作付地の解消が課題となっていました。

マッチングの きっかけ

小中さんは、静岡県で飲食店を経営されていましたが、農業に興味を沸き静岡県内の農業法人で2年間レタス栽培の研修を行いました。研修後、出身地である広島県でまとまった農地を探していたところ、気候が温暖でレタス栽培に適した同地域でまとまった休耕地を見つけ、市へ相談したところ地域の協力もあり、農地を借り受けることができました。

(右写真)
一面に
広がる
小中さん
のレタス
畑。

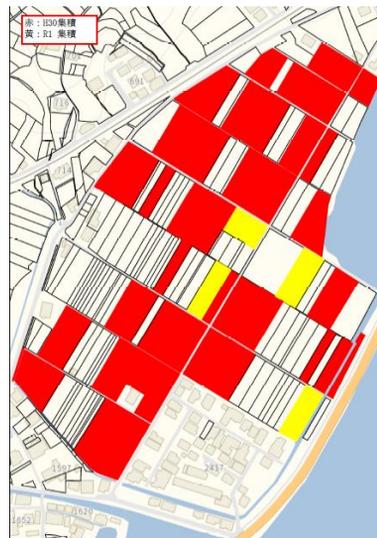


写真中央が小中さん。自らの足で就農地を決め、今や地域にすっかり溶け込んでいる小中さん。「まわりから見ると大変な事も農業が好きだからできる」と力強く語られています。小中さんのレタス作りを学ぼうと県内生産者や小中さんの友人と一緒に作業されていました。

調整役(宮野コーディネータ)のコメント

中浦新開地区は区画整理されておらず、筆数も多く権利関係が複雑な筆もあり、農地の場所と権利者の特定に苦労しました。

同地区の営農組合や農地所有者にも協力を求め、休耕地の復旧や改修を行いました。地域の住民の方も農地が復元し、景観も良くなり大変喜んでいますが、排水対策など現在も課題はありますが、この地域を選んでくれた若い担い手の為にも、出来る限りの協力をしていきたいと思っています。



小中さんの経営農地図面赤色が平成30年に黄色が令和元年に借受けられている。

機構を活用して良かったこと 今後の経営の抱負

新規就農のため、農地を借受ける手続きにかなり時間が掛かりましたが、農地中間管理事業を活用し、コーディネータの協力も得て、まとまった農地が借り受けられた事は良かったです。

今後は仲間を増やし、産地として規模拡大していくとともに、地域の一員として協働で中浦新開地区を元気な地域にしていきたいです。